

銀の鐘 1号館

- 物件名：銀の鐘1号館
- 住所：入船1-1-2
- 電話：21-2001
- 所有者：株式会社長登屋
- 運営者：柳谷辰雄(支配人) 吉田倉健(主任)
- 人員：8人
- 建物履歴：
- 大正13年 中越銀行小樽支店として創建
- 昭和18年 北陸銀行南小樽支店に改称
- 昭和49年 小樽支店は廃止
- 昭和50年 戸出物産が縫製工場として再利用
- 平成5年 小樽市歴史的建造物指定
- 平成6年 銀の鐘1号館開館

※株式会社中越銀行

- 明治27年 富山県東砺波郡出町(今の砺波市)を本店として設立、翌年1月開業
- 明治45年 中越銀行は港町1番地(現所在地)に小樽支店を設置
- 大正8年 中越銀行は越中銀行を買収 奥沢出張所を設置
- 大正13年 中越銀行小樽支店新築
- 昭和18年 戦時統合(銀行は各県1行が原則)により、中越銀行・十二銀行・高岡銀行・富山銀行は合併、新たに北陸銀行を設立、旧4行は解散。旧中越銀行小樽支店は北陸銀行南小樽支店に改称。
- 昭和38年 北陸銀行南小樽支店廃止、同時に小樽支店を旧南小樽支店に移転。
- 昭和49年 小樽支店は廃止、新たに駅前の小樽駅前支店を小樽支店と改称。<『小樽學』>

■外観

- ①玄関 銀の鐘は不特定多数のお客様を招き入れるべき業務なので、玄関はできるだけ広い方がよく、かつてのしつらえや石段もそのまま再利用して、格式を維持。
- ②看板 北陸銀行南小樽市店当時の看板と郵便受けが今もそのまま残されている。

■内観

- ①回廊 銀の鐘となってからも、当初の銀行用のしつらえである回廊をそのまま再利用。
- ②眺望 2階・3階からの眺望、小樽でも意外な横顔がうかがえる。
- ③金庫室 今後工夫しながら公開予定。

■内容

昭和4年創業で名古屋を本社とする株式会社長登屋は、平成6年に初めて北海道に進出、札幌に工場を新設した。販売部も同時に検討され、小樽で物件を探した際に、この建物が候補にあがり、小樽の街並みが気に入り、小樽をPRするためにも平成6年に再生。

■客層

約80%が海外(中国・台湾)客



外観



外観



外観の意匠にも趣が



勝手口玄関に旧看板



エントランス



店内



吹き抜けと回廊のファンタジー



基本構造をそのままになぞった整備



台輪とシャンデリア



導線を考えた階段整備



2階からの景観は一見の価値